

つなごう未来へ

会津若松ザベリオ学園中学校3年 大森 和佳奈

「わー、こんなに。」

私は母と小さい頃の写真などを見ている時に、それと一緒に母子手帳を見せてもらった。見てみると、健康診断の結果や予防接種などたくさん受けていた記録などが書いてあった。これらが無料で受けていたことを知りおどろいた。この母子手帳も交付されたものだと母から聞き、なぜ無料で受けられていたのか調べてみるとすべて税金で賄われていたことを知った。

中学生の私にとって、「税金」と聞かれたら今まであまり深く考えたことはなく「消費税」ぐらいしか思いつかないくらい、知識もなくすごく遠い存在のように思っていた。しかし調べれば、調べるほど案外身近な存在だということが分かってきた。

私達が病気やケガをした時、病院で心配なく治療を受けられ、救急車が必要な時でも、一一九番に電話すれば、無料で病院まで運んでくれる。しかし、海外では、救急車は有料のことが多く、その多くは高額のことが多いそうだ。すべての人が移動する距離の遠さに関係なく無料で利用できる日本の救急車は本当にすごいし、安心できると思った。この安心も税金で賄われ、多くの人の命を救い、またそのサービスをあたり前のように受けることができる。

それだけではない。警察や消防、道路、信号、ゴミの収集など安心して生活できる基盤を作っている税金。今まで知らずに暮らしてきたが、税金に支えてもらっていたんだと感謝の気持ちでいっぱいになった。あたり前と思っていたことも、一生懸命働いて納税して下さる方がいて、たくさんの恩恵を受けているということを忘れてはいけないと思った。

私は小さい頃から食物アレルギーがあり、食べられる物に少し制限がある。誤ってアレルゲンを口にしてしまうと、口が赤くはれたり、かゆくなったりしてしまうからだ。何かあればすぐに病院へ行くことができるのも、税金のおかげだ。私の住む市では子ども医療費の助成があり、0才から十八才まで医療費を補助してもらえる。このような税金を財源にした社会保障制度があるから元気に過ごすことができると思った。本当に感謝しかない。

そう考えると、この税金がなかったら無料で受けられていたものも全額負担しなくてはならなくなり、収入の少ない人は費用負担が心配になり生活ができなくなる可能性もあるのではないだろうか。どんな立場にある人も取りこぼさないようにみんなで支えあうという制度が税金であると感じた。

今、私は多くの納税者に支えられて恩恵を受けている立場だが、あと数年で成人する。納税することは、私達の生活を豊かにし、支え合えるということを経験することで、次の世代へつなげていける。そうすることが豊かな未来につながると思う。私もしっかり成人したら納税をし受けた恩恵を未来へつなげたい。